

WORD JUNGLE STEP.1

今回は“WORD JUNGLE STEP.1”について話をしていきます。

WORD JUNGLE は、“WORLD PEACE 読書会”の中で、末吉 大希と僕で生み出したダイアログの場づくりのメソッドで、大きく分けると3つのSTEPからできています。

STEP.1 問いをつくる

STEP.2 混沌をつくる

STEP.3 ふり返る

このWORD JUNGLE では、情報提供者の話や本やDVDなどからキーワードを拾い、それらをポストイットに書き出すインプットからのアウトプットを経て、それを切り口としてダイアログし、最終的に参加者それぞれがダイアログから気づきを切り取る、そういった流れの場を90～120分かけてつくり出します。

STEP.1で一番最初にやることは、場を通じたおおきな”問い”を投げかけることです。これは一般化された100人100様の言葉がオススメです。たとえば、“働く”だったり“学ぶ”であったり、参加者の人数分の表現がある、そんな”問い”を参加者に投げかけます。これは、STEP.3のふり返りの時にもう1度投げかける”問い”で、その場のテーマとなるものがないでしょう。

それを投げかける上でのポイントが3つあります。ひとつ目は、参加者それぞれに右手を前に出してもらい、それを自分の左肩に持っていき”お疲れさま〜”と声を出しながら方を叩いてもらいます。リラックスしてもらうためと、自身自身に触れることで、参加者自身にしっかりとそこに自分が存在しているということを実感してもらいます。

ふたつ目は、参加者にゆっくりと目を瞑ってもらい、一度深呼吸を経てから、目を瞑ったままどちらかの手の人差し指を立てた状態でご自分の前に出してもらいます。そして”わたし”と言いながらご自分を指さしてください”とお願いして実際に指さしてもらい、その指先にあるご自分の身体に触れていただきます。これも自分がそこにいることを触って認識してもらうこと、それとその参加者が頭からハートのどこを指さすかで、その人が今大切にしている部分の仮説を立てます。頭の方を指させば論理的、ハートの方を指させば感覚的といった仮説です。

そして3つ目は、目を瞑ったまま人差し指でご自分の身体に触れてもらいながら、その場に選んだ大きな”問い”を投げかけます。例えば、その場の”問い”が”働く”だとしたら、”私にとっての”働く”とは？”といったカタチで、参加者それぞれにとっての”問い”の回答をイメージしてもらいます。このあとポストイットにその回答を書き出してもらいますが、ここでは言葉だけではなく、イメージでも音でも匂いでも、ご自分が感じたイメージを自由に書き出してもらってください。

このあとは個人で”問い”をつくってもらいますが、そこでは終わりの時間に得たい成果と感情、このふたつをまたポストイットに書き出してもらってください。個人でつくる”問い”は、全然関係ないものでも大丈夫で、特に得たい感情はきちんと書き出してもらってください。それと、この個人の”問い”を投げかける前に、簡単なスケジュールを共有すると、参加者にイメージがわきやすいようです。

私はこのあとに自己紹介と” 問い ”の回答、得たい成果と感情をシェアするのを兼ねて行いますが、アイスブレイクとして自己紹介が一番最初になっても構いません。でも、その場合は必ず” 問い ”の回答、得たい成果と感情をシェアする時間をとって、他の参加者に知ってもらい協力し合える状態をつくってください。

そしてキーワードを得る情報源、例えば情報提供者の話や本やDVDなど、そこからどんなことを知りたいのか、それをまた3つほど質問にしてもらいます。それは情報提供者や本の著者、DVDで話している人に質問を投げかけるように。その人が目の前にいるとして、あなたがなにを知りたいのか、そしてそれを知れると嬉しくて仕方がないという問いである方が望ましいです。でもここで質問をつくれな人もいたので、その場合は強制はせず最低1つつくれれば大丈夫です。

これでSTEP.1 質問をつくるは終了です。場の大きな” 問い ”、それぞれが得たい成果と感情、情報源への質問が3つ。これで最大計6個の” 問い ”が参加者の脳の中に投げかけられました。場の大きな” 問い ”を持つこと、個人の” 問い ”を複数持つこと、それがこのSTEP.1で行うことです。

実はこのWORD JUNGLE は、僕がファシリテーターをして場をつくるうえで大切にしていることをひとつのカタチにしたものです。” 問い ”をつくり発散し収束するといったその流れをカタチにしてあります。なので、このWORD JUNGLE という流れを何度か体験してもらえれば、発散と収束の流れを身体で感じることができ、場づくりのポイントも発見できる、結果そういったものになりました。

実際、このWORD JUNGLE は最後にまとめなくていいのです。STEP.3のふり返りで、最初に投げかけた大きな” 問い “をもう一度投げかけること、それと得たい成果と感情についてふり返ってもらうこと、それをすれば、そのタイミングに切り取られたそれぞれの回答を手にしてもらえます。

そのためにはSTEP1できちんと”問い”をつくることが重要で、それがあるからSTEP2でしっかりと発散し混沌を起こすことから広い視点での気づきを得ることにつながります。ここでの”問い”大きさが場の広がりを生み出すので、基本的に一般化された言葉を大きな”問い”に選んでもらっています。

例えば、”働く”という”問い”と、”女性の働き方”もしくは”30代子育てママの働き方”という”問い”があった時に、どの”問い”が一番思考の幅が広いでしょうか。私の体験からすると”働く”が一番幅広く思考できます。”問い”が具体的にできればなるほど、参加者の発言は絞られてきますので。でも発散して混沌を起こすところにつなげていくことを考えると、ここでの大きな”問い”は一般化された言葉の方がいいのです。

実際の中で体感している方も多いとは思いますが、ダイアログの場に関わると、その目の前の場に自分が映し出されてしまいます。僕がそれに気づいた頃には、自分の気づきとなるということがとても嬉しいことでしたが、中には自分を見つめることに対して怖れを感じる場合も多いでしょう。

例えば”促す”存在のファシリテーターが”私、正しいでしょ”という想いを強く持ちながら場を促していくと、その場の参加者からものすごく”正しさ”を主張される可能性が高いです。でも、ファシリテーター自身が”正しさ”を認めてほしい時、自分の”正しさ”とは違う人の正しさを受けとめることは簡単ではないかもしれません。表面上では笑顔で受けとったとしても、内心は”それは違うでしょ”って。

みんな、とにかく自分のことをわかってほしい、ダイアログの場に来る人もダイアログの場をつくる人も、何度やっても何才になっても消えずに持ち合わせる想いだと思います。人に認めてもらえば嬉しいですし、少し照れながら受けとってみたり、ひと目も気にせず大喜びできたり。

でも、それでも多くの人は繰り返し自分の足りないことに一生懸命に目を向けて、ダメだダメだと自分を責め続けます。なかなか自分の持っている才能たちに自分で目を向けることができないようで、僕自身もそのひとりです。なんらかの出来事を勝手にダメだと受けとめて、否定されたと落ち込んで。

実は、誰も私のことを否定していないのです。否定しているのは自分自身であって、私が私を否定するから目の前の出来事から傷つき落ち込んだりします。それって目の前の場に影響すると思いませんか？

“促す”というのは”わからないこと”なのだと、僕は思っています。行き先のわかるダイアログであれば”促す”ではなく導けばいいので。その方が確実にゴールに近づけるでしょう。でもこの多様な時代に個々が持つ視点や才能を活かしていくとしたら、そのためには設定した目的や目標に向けて”促す”こと、それが大切だなとこれまでダイアログの場をつくってきて感じます。

このWORD JUNGLE では、参加者が自由に発言し、それぞれで回答を持ち帰るので、ファシリテーターは最初に何らかの恐怖を得るかもしれません。自分が理解できない発言や体験したことのないアイデアなどなど。でもそれがイノベーションなのだと僕は思います。ファシリテーターは先生ではなく”促す”人なのです。発言の内容ではなく、過程を管理する人なので。

たくさんがながと書かせていただきましたが、何はともあれ、実践ですね。次回はWORD JUNGLE STEP.2 に続くのですが、その前にぜひ”促す”とは何なのか、それをご自分に問いかけてみてください。”問い”が入れば拾える情報も変わってくるはずですので。

本音が自然と話せるダイアログの場づくりに向けて、ぜひまた新たな1歩として踏み出してみてください。